訓点文

春夜宴二桃李園一序

夫天地ハ者萬物之逆旅、光陰ハ者百代之過客。而浮生若レ夢。爲レ歡幾何。古人秉レ燭夜遊、良有レ以也。況陽春召レ我以二煙景一、大塊假レ我以二文章一。會二桃李之芳園一、序二天倫之樂事一。群季俊秀、皆爲二惠連一。吾人詠歌、獨慚二康樂一。幽賞未レ已、高談轉清。開二瓊筵一以坐レ花、飛二羽觴一以醉レ月。不レ有二佳作一、何伸二雅懐一。如詩不レ成、罰依二金谷酒數一。

書き下し文

春夜桃李の園に宴するの序

夫れ天地は萬物の逆旅、光陰は百代の過客なり。而して浮生夢の若し。歡を爲すこと幾何ぞ。古人燭を秉て夜遊びしは、良に以有るなり。況んや陽春我を召くに煙景を以てし、大塊我に假すに文章を以てするをや。桃李の芳園に會して、天倫の樂事を序す。群季の俊秀なるは、皆惠連たり。吾人の詠歌は、獨り康樂に慚ず。幽賞未だ已まず。高談轉た清し。瓊筵を開いて以て花に坐し、羽觴を飛ばして以て月に醉ふ。佳作有らずんば、何ぞ雅懐を伸べん。如し詩成らずんば、罰は金谷の酒數に依らん。

李太白「春夜桃李の園に宴するの序」

星川清孝 著「古文真宝選新解」 明治書院（一九五六）より引用。